

中国語母語話者の日本語学習者の「格助詞」不使用について

—格助詞「が」の不使用を中心に—

于 康

1. 問題提起と研究の目的

文の形式において、中国語と日本語との最大の違いは、構文における文の構成成分の役割を、中国語では語順で表すのに対し、日本語では格助詞や助詞で示すという点であろう。従って、中国語母語話者にとって、日本語の格助詞や助詞の学習は、最も難しく、誤用の頻度も非常に高い。

第二言語習得の研究において、「習得」と「学習」といった術語が重要なキーワードになっているが、それぞれの定義については様々な議論が見られる。ここでは、「限られた空間や時間においてなおかつ教科書を通して目標言語を学ぶ行為」を「学習」、「空間や時間、形式の制限がなく、自然環境下で目標言語を身に付ける行為」を「習得」と定義しておく¹⁾。ここで言う日本語学習者は、中国語の環境下で、教室という限られた空間で教科書を通して日本語を学ぶ学習者のことを意味するものである。従って、そこで行われる日本語を学ぶという行為は、「習得」ではなく、「学習」であると考えられる。以下、特に必要でない場合、「学習」という術語を使う。

中国語母語話者にとって、日本語の格助詞や助詞の学習が最も難しい項目であると言っても、果たして、格助詞や助詞のすべてが学習しにくい項目になっているかが問題になる。格助詞や助詞において、それぞれの学習難易度が存在するとすれば、その詳細を明らかにしなければならない。

しかし、これまで、日本語の格助詞や助詞の誤用研究²⁾があるものの、母語話者を限定して行われたものは少ない。母語話者を限定したものであっても、必ずしも大規模な誤用コーパスから採取してきた最も典型的なものではなく、ケースバイケースのものが多く見受けられる。研究の対象が典型性を有するものでなければ、そこから得た結論は、必ずしも一般化ができるものではない。一般化ができないものなら、必ずしも有効性のある結論になると言えないのは自明なことであろう。以上の問題をクリアするために、少数ではあ

1) 「習得」には「学習」という行為、「学習」には「習得」という行為が含まれると考えられる。

2) 于 (2012) は「誤用」については、「誤用」とは、「中間言語 (interlanguage)」における目標言語話者の殆どが統語論的なおかつ意味論的、語用論に容認困難な言語表現のことであると定義している。

るが、現在、様々な形での大規模な誤用コーパスの構築が進められているようである。

さて、格助詞の誤用には、様々な現象が観察される。そのうち、格助詞の「不使用」が注目すべき点である。格助詞の「不使用」とは、文において、それを用いなければならないにもかかわらず、用いられていないことを指す。ここで言う「不使用」は、日本語母語話者から見られる「不使用」現象とは異なる。誤用としての「不使用」は、必要不可欠なものなのに、用いられていないのに対し、日本語母語話者の「不使用」は、必要不可欠なものではなく、必要であれば使用したり省いたりすることができるものである。

本稿は、大規模なコーパスの一つである、『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパスVer.8』³⁾ から抽出してきたデータを対象に、中国語母語話者の日本語学習者の格助詞の不使用の誤用例を中心に、まず計量的な統計を行い、格助詞の不使用の実態を明らかにしてみたい。次に、格助詞の「が」の不使用の実態を明らかにし、構文論や文体論という視点から、「が」の不使用の主な原因を究明してみたい。

2. 格助詞不使用の計量的統計

『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパスVer.8』から、格助詞の不使用の誤用例は、386例見つかった。代表例は次の通りである。

- (1) 契約を通して私たちは権利をもらう一方で、義務も課せられる。だから、サインする前(○→に⁴⁾)よく考えておくことが無難だ。(女／中国M1／学習暦4年／滞日0／感想文)
- (2) でも、写真を見て、印象深くなりました。特に冬の合掌造り(○→の)村は、眺めるとまるで童話の世界の部屋ようです。(女／中国2年／学習歴1年2ヶ月／滞日0／感想文)
- (3) このような状況を見ると、我々中国の大学生(○→が)一年間で読む本はアメリカの大学生の一週間で読む本にも足りないじゃないか。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0／感想文)
- (4) 青春に溢れた大学の校庭、自分の足で、もう一回行ってみたいなあ。人生の中(○→で)、忘れられない思い出が沢山だ。(女／中国2年／学習歴1年2ヶ月／滞日0／感想文)
- (5) 再び社会に役立つようになるだけではなく、収入(○→を)獲得することもできます。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0／感想文)

3) 用例は、于康が北京第二外国語学院の日語学院の教員や学生、南京大学日語系の学生、福建師範大学日語系の学生、湖南大学日語系の学生、関西学院大学大学院の于ゼミの博士前期と後期の院生のご協力のもと開発した『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパスVer.8』(2012年7月の時点では、誤用ファイル数は14,721である)からとったものである。以下は「誤用コーパス」と略す。

4) 「→」の前の「○」は不使用、「→」の後の格助詞は使用すべき格助詞を意味する。即ち、「○→に」は、「に」が、用いなければならないのに、用いられていないという意味である。

- (6) 「一人の女性は一生娘 (○→と) 妻と母の三つの役をしなければその人の人生は不十分だ。」(8級試験)
- (7) ノーベル賞をめぐる中国人からの批判があちこち (○→から) 聞こえるようになった。(女/中国M1/学習歴4年/滞日0/感想文)
- (8) また、私は多くの友達に会うことは大切なことだと思う。ときどき、友人としゃべり、遊び、あるいはともに仕事をする。そして、自分の興味があること、意義のあることをする。本をたくさん読み、運動もよくする。人生 (○→へ) の挑戦に備える。まじめに自分のすべきことをこなしていく。(8級試験)

以上の誤用例から、格助詞の「に」「の」「が」「で」「を」「と」「から」「へ」の不使用の誤用例が確かに存在することが分かる。ただし、格助詞の不使用の誤用例の中でそれぞれがどのように位置づけられているかは明らかになったわけではない。中国語母語話者の日本語学習者がその使用を取り落としやすい格助詞の比率を明らかにしなければ、中国語母語話者の日本語学習者にとって、何が最も難しいことなのかを究明することはできないことになる。

そこで、386例の格助詞の不使用の誤用例を、格助詞の種類毎に分け、それぞれの比率を統計してみた。その結果を示すと、図1のようになる。

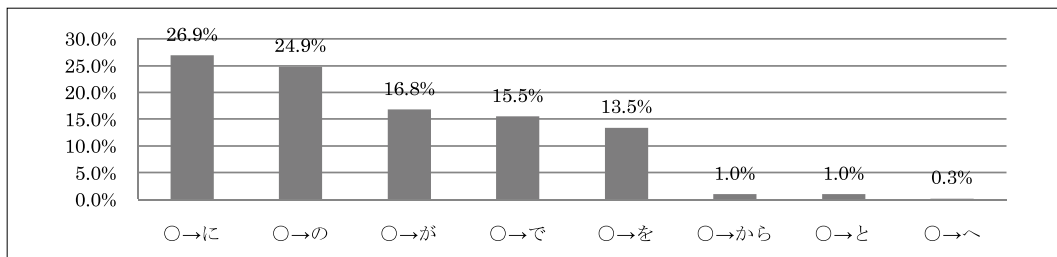


図1 格助詞の不使用の分布 (Ver.8) n=386

図1によって示されているように、中国語母語話者の日本語学習者にとって、最もその使用を落としやすい格助詞は、主に「に」「の」「が」「で」「を」のようである。

ただし、ここで一つ注意しなければならないことがある。図1の「○→の」の誤用の比

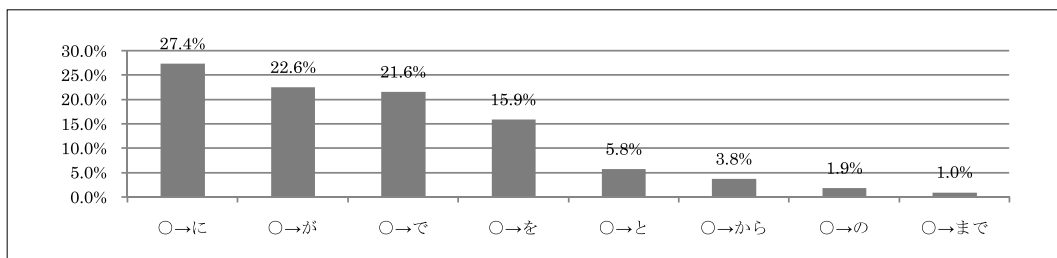


図2 格助詞の不使用の分布 (Ver.2)⁵⁾ n=206

5) 図2 (Ver.1) では、「まで」の誤用データを扱っていたが、誤用例がきわめて少数であったため、Ver7から「まで」のデータを外している。

率と于 (2012a) でまとめた「○→の」の誤用の比率 (図2) とが異なるという点である。

即ち、図2では、「○→の」の誤用例が少ないのに対し、図1になると、格段に増加するのである。これは、Ver7からは中国で行われている「四八級考試 (四級/八級の日本語検定試験)」のデータも取り入れたことに起因すると考えられる。

翻訳の誤用データを取り入れる前と取り入れた後の『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパス』を比較してみると、取り入れる前のコーパスでは、「○→の」の誤用例が非常に少数であるのに対し、取り入れた後のコーパスでは、「○→の」の誤用例が顕著に増加することが分かった。受験者は、中国語の原文を見ながら翻訳をしていたので、中国語の原文の干渉が著しくなったと考えられる。即ち、中国語の原文では、NPがNPを修飾する際に、“日语老师 (日本語の先生)” “中日两国友好 (中日両国の友好)” などのように、日本語の「の」に相当する「的」は、必ずしも用いられる必要がない場合が多いため、中国語母語話者の日本語学習者は、その影響でつい「の」の使用を取り落としてしまうのである⁶⁾。

従って、図1の「○→の」の比率は、他の格助詞のものとは異なる性格を有すると言える。そこで、「○→の」を除けば、中国語母語話者の日本語学習者によく見られる格助詞の不使用は、図1と図2で同様であり、「に」 > 「が」 > 「で」 > 「を」という順になる。格助詞の不使用やその順位の実態は明らかになったとしても、それだけでは、それが学習の困難点であるとは断定しかねる。格助詞の過剰使用の実態を合わせて考えなければならない。格助詞の過剰使用については、他稿で検討することとし、ここでは不使用について考察する。まず格助詞の不使用と過剰使用の統計の結果を図3に示しておく。

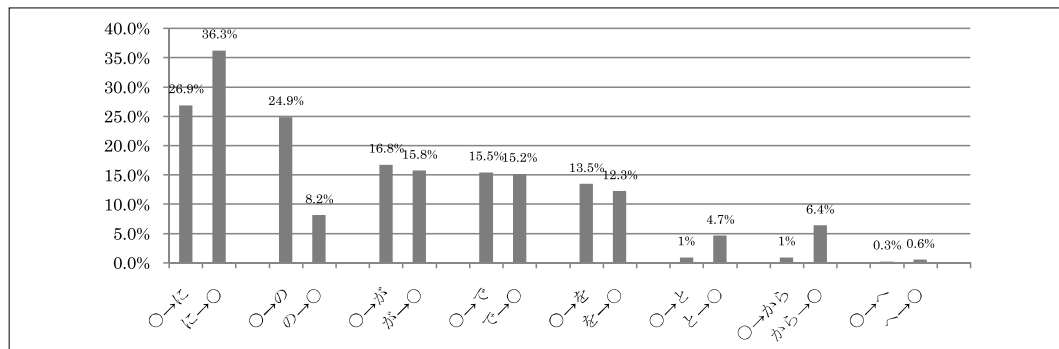


図3 格助詞の不使用と過剰使用の比較 ○→X : n=386, X→○ : n=168

「○→の」「の→○」を除けば、図3のように、格助詞「に」「が」「で」「を」における、格助詞の不使用と過剰使用の比率が見事にペアになっていることが興味深いところである。それぞれの誤用の原因が必ずしも同様でないとしても、図3からは、中国語母語話者の日本語学習者にとって、日本語で作文する際に、格助詞の「に」「が」「で」「を」の選

6) 誤用例が少ないが、過剰般化の現象も観察された。

択が非常に難しいことがうかがえる。換言すれば、学習者は、どのような場合や条件なら、「に」「が」「で」「を」を選択しなければならぬか、どのような場合や条件なら、「に」「が」「で」「を」を選択してはならないかについて非常に混乱していると言える。これらの格助詞は、日本語の学習上の困難点であると考えられるであろう。

3. 格助詞「が」の不使用と構文の制約

386例の格助詞の不使用の誤用例の中に、格助詞「が」の不使用の誤用例は、65例あり、全体の16.8%を占めている。格助詞「が」の不使用の原因の究明について、構文論的なアプローチもあれば、意味論的なアプローチもある。ここで言う構文論的なアプローチとは、文の構造上の制約から「が」の不使用の原因を突き止めるものであり、意味論的なアプローチとは、文における文の構成成分の意味機能から「が」の不使用の原因を突き止めるものである。語感を持たず、意味機能の判断も付かない中国語母語話者の日本語学習者にとって、意味論的なアプローチよりは、まず構文的なアプローチから格助詞の不使用の原因を明らかにするのが現実的であろうと思われる。

構文上の制約から「が」の不使用の原因を究明するためには、どのような構文なら、「が」の不使用が見られるかを明らかにする必要がある。

- (9) 地球温暖化の進行によって、台風など災害 (○→が) 頻発している。(女/中国M1/学習歴10年/滞日0/感想文)
- (10) しかし労働者にはこの好景気の分配はなく、労働者の給与は減少傾向 (○→が) 続きました。(女/中国M1/学習歴4年/滞日0/感想文)
- (11) これは、人間 (○→が) 進歩している代価でしょうか。(女/中国3年/学習歴2年/滞日0/感想文)
- (12) このような状況を見ると、我々中国の大学生 (○→が) 一年間で読む本はアメリカの大学生の一週間で読む本にも足りないじゃないか。(女/中国M1/学習歴4年/滞日0/感想文)

(13) 両親 (○→が) 年寄りになったら、私は必ず彼たちと一緒に生活する。(8級試験)

用例(9)～(13)は、それぞれの構文が他と異なっている。それらを抽象化し、パターン化を試みると、次の通り、5つの構文パターンにまとめることができる。XPは、VP、AP、「NPだ」を含む総称である。

I型：「NPがXP」型

II型：「[NPは] + [NPがXP]」型

III型：「[NPは] + [(NPがXP) NPだ]」型

IV型：「[(NPがXP) NPは] + [XP]」型

V型：「[NPがVPたら] + [NPはVP]」型

それぞれのパターンの全体における比率を統計してみると、図4になる。

ここで一つ断らなければならないことがある。本稿は「が」の不使用だけを問題としているため、「が」の誤用の全体において用例数がそれほど多く出ないことをご理解頂きたい。ファイル数が10万、100万になったときは、パーセンテージが図4のままなのかという疑問の声が聞こえそうであるが、後述のように、仮にパーセンテージが変化されたとしても、本論の主張にはそれほど影響を与えるものではないと考えられる。

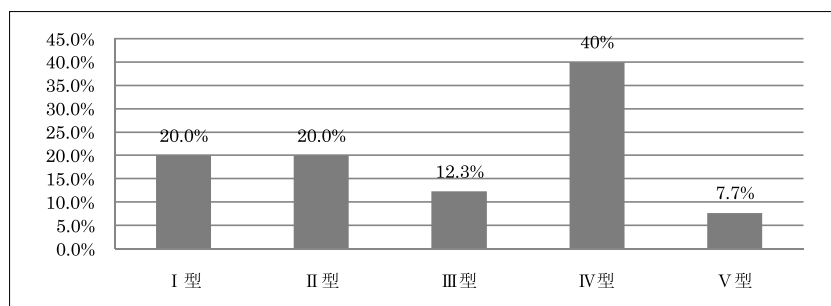


図4 構文のパターン n=65

格助詞「が」の不使用は、IV型の「[(NPがVP) NPは] + [XP]」が最も多く、以降、I型の「NPがXP」とII型の「[NPは] + [NPがXP]」、III型の「[NPは] + [(NPがXP) NPだ]」、V型の「[NPがVPたら] + [NPはVP]」という順位になる。この順位は、何を物語っているか、それぞれのパターンの中に構文上の共通点がないか、問題解決の手掛かりが得られないかについて、以下において、詳細に検討してみたい。

3.1 I型の「NPがXP」型の「が」の不使用について

I型の「NPがXP」構文は、最も典型的な文型の1つである。このI型の構文は、益岡(2000)では「事象叙述」と呼ばれている⁷⁾。事象叙述について、益岡(2000)は、「事象叙述とはある時空間に実現・存在する事象(現象)を表現するものである。」と定義し(p.40)、構文的には、「事象叙述の表現は、基本的に「補足語-述語」という構造を有する。したがって、事象叙述の表現は典型的には無題文の形を取る。」と述べている(益岡2000, p.41)。「事象叙述」文における主語のマーカ―について、森田(2002)も益岡(2000)も、「対象語」は原則として「が」で表さなければならないと説明している。I型には主に次のようなカテゴリーが含まれている。

i 「NPがVP」型

(14) 地球温暖化の進行によって、台風など災害(○→が)頻発している。(女/中国M1/学習歴10年/滞日0/感想文)

ii 「NPがAP」型

7) 石神(1989)や森田(1995)では「現象文」と呼ばれている。

(15) 仕事にがんばる一方、温かい家族も作りたい。そして、子供 (○→が) 二人ほしい。(8級試験)

iii 「NPがNPだ」型

(16) 輝くところがあれば、平坦なところもある人生設計 (○→が)、私の人生設計である。(8級試験)

述語たるものは、(14) のように、VPの場合もあれば、(15) のように、APの場合もあり、更に、(15) のように、「NPだ」の場合もある。どの場合にしても、「NPが」は、何れも述語の主語に立つことになっている。このI型の「NPがXP」を中国語で表現する場合は、次のようになる。

(17=14) 台風など災害 (○→が) 頻発している。 / 台风等自然灾害频繁发生。

(18=15) 子供 (○→が) 二人ほしい。 / 我想要两个孩子。

(19=16) 輝くところがあれば、平坦なところもある人生設計 (○→が)、私の人生設計である。 / 既光辉又平坦的人生设计才是我(追求)的人生设计。

(17=14) ~ (19=16) のように、主語は、日本語では「が」でマークされているのに対し、中国語では、語順によって示されており、文法のマーカーが存在しない。また、(18=15) のように、日本語では「NPが」が対象を表す主語になる場合もあるが、それに相当する中国語は、目的語で表すことになる。また、中国語における目的語も主語と同様、語順によって示され、文法的なマーカーは存在しない。従って、I型の格助詞「が」の不使用は、中国語の干渉に起因するものと考えられる。このような誤用例は、初級レベルの学習者だけでなく、5、6年以上日本語を学んでいる修士クラスの学習者にも見られる。

「事象叙述」や「現象文」において、『「Aハ」とすると、対比の強調か、取り立てとなる。』という森田(2002, p.78)等の説を踏まえて考えれば、「が」がデフォルトであるのに対し、「は」はNPを取り立てる機能を有する有標のマーカーであると解される。学習者は、「が」と「は」についての文法知識は、学んではいたが、その作文のデータでは、やはり、「が」の不使用が目立つ。

図5は、『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパスVer.8』における「は」の不使

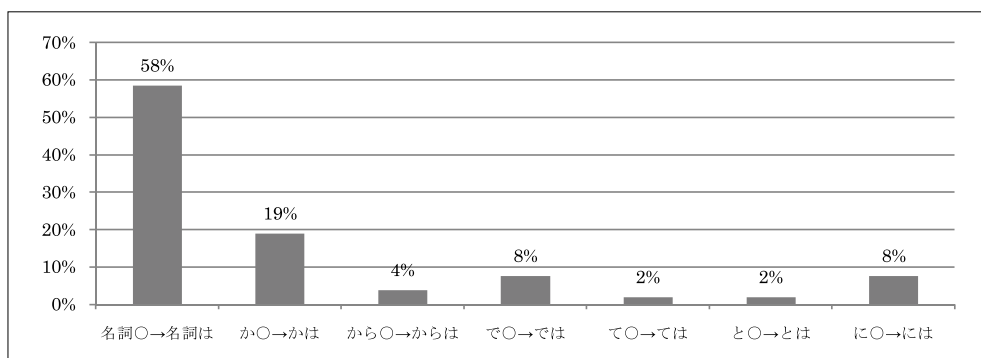


図5 「は」の不使用 n=53

用の現状である。「名詞○→名詞は」とは、名詞の後に「は」の共起が必要であるが、付与されていないということであり、「か○→かは」とは、「か」の後に「は」の共起が必要であるが、付与されていないということである。「から○→からは」「で○→では」「て○→ては」「と○→とは」「に○→には」も同様である。

図5において、「名詞○→名詞は」は、「が」の不使用に関わっているものである。やはり高い比率を占めている。この現象は、文における文法のマーカーの選択について、母語の干渉を強く受けることや、主語にマーカーさえ付与すれば文が成り立つと思われているようなので、マーカーの間の意味機能の相違にまで目配りがきかないということを物語っているであろう。

3.2 II型の「[NPは] + [NPがXP]」型の「が」の不使用について

II型の「[NPは] + [NPがXP]」において、[NPがXP]は、句であり、文の主語または主題とされる[NPは]について述べるものである。句の[NPがXP]の中における「NPが」が構文上では、XPの主語になる。即ち、II型においては、主語と称されるものが2つある。1つは文の主語または主題であり、もう1つは句の主語である。「[NPは] + [NPがXP]」には、主に次のようなカテゴリーが含まれる。

i 「[NPは] + [NPがVP]」型

(20) しかし労働者にはこの好景気の分配はなく、[労働者の給与は] + [減少傾向(○→が) 続きました]。(女/中国M1/学習歴4年/滞日0/感想文)⁸⁾

ii 「[NPは] + [NPがAP]」型

(21) [日本人は] + [契約をたてまえだと思っている人(○→が) 多い]。(女/中国M1/学習歴10年/滞日4年/感想文)

iii 「[NPでは] + [NPがAP]」型

(22) [学校では]、+ [消防訓練や防災教育など(○→が) 少ない]。(女/中国M1/学習歴10年/滞日0/感想文)

i型～iii型において、[NPがVP] [NPがAP]は、何れも文の主語または主題の[NPは]と主題の「NPでは」について述べることになっている。このII型は、「[文の主語] + [句の主語+述語]」と解釈することができるであろう。中国語にも、“小王个子高，但腿短。/王さんは、背が高いが、足が短い。”のように、「[NP₁] + [NP₂+XP]」といった構文が存在し、“主谓谓语句 / ([主語] + [主語+述語]) 構文”と呼ばれるものがある。しかし、

(23=20) [労働者の給与は] + [減少傾向(○→が) 続きました]。
/ 工人的工资(仍旧在) 不断减少。

8) 構文のパターンを説明するため、用例を再掲する場合もある。

(24=21) [日本人は] + [契約をたてまえだと思っている人 (○→が) 多い]。

/ 日本人有很多人认为契约书只是一种形式上的东西。

(25=22) [学校では]、+ [消防訓練や防災教育など (○→が) 少ない]。

/ 学校很少进行消防训练和防灾教育。

のように、日本語のⅡ型の「[文の主語] + [句の主語 + 述語]」は、中国語で表現する際に、必ずしも全てが“主谓谓语句 / ([主語] + [主語 + 述語]) 構文”に当たらない。特に、主語について、日本語学に用いられている定義や認定と中国語学に用いられている定義や認定とは必ずしも一致しない。即ち、日本語で主語とされるものは、中国語では必ずしも主語にならず、中国語で主語とされるものは、日本語では必ずしも主語にならないということである。それに加え、主語が存在するということは分かるが、文において、どの成分が主語に当たるのか、一般の日本語学習者にとって、非常に難しいようである。例えば、(23=20) ~ (25=22) の中国語における主語がなにか、日本語のどれに当たるのかについてアンケート調査をしても、なかなか高い正答率は得られない。

中国語母語話者の日本語学習者は、授業や参考書を通して、日本語の文の主要な構成成分がNPなら、格助詞や助詞を使って表さなければならないという文法の規則を学んでいる。「[NPは] + [NPがXP]」のような構文は、日本語の主要な構文の1つであることも学んでいるが、Ⅰ型の格助詞「が」の不使用の誤用例のように、中国語の干渉を強く受けるとしても、学習者は、やはり、日本語で作文する際に、常に、日本語の文の「主語」または主題に何らかのマーカを付与しなければならないという意識や日本語らしい日本語で表現したいという意識を強く持っている。従って、「[NPは] + [NPがXP]」のような構文を使いたいが、結局、文の主語（または主題）と句の主語といった、2つの主語を使い分けなければならない場合、文の主語（または主題）のマーカ付与に気を取られてしまい、句の主語にもマーカを付与しなければならないことにはなかなか気づかないことからくる誤用が生じてくる。そのため、「[NPは] + [NPがXP]」における句の主語のマーカの不使用も目立つのである。

3.3 Ⅲ型の「[NPは] + [(NPがXP) NPだ]」型の「が」の不使用について

「[NPは] + [(NPがXP) NPだ]」型は、構文の形式では、Ⅱ型と異なり、「(NPがXP)」が従属節である。その従属節は後続の名詞を修飾する名詞的修飾成分になる。従属節も句レベルのものであることから、「(NPがXP)」における「NPが」が何れも句レベルの主語であるという点においては、Ⅱ型と同様である。即ち、Ⅲ型は、「[主語 / 主題は] + [(従属節 / 句の主語がXP) NPだ]」と解釈することができるであろう。Ⅲ型には、主に次のようなカテゴリーが含まれる。

i 「[NPは] + [(NPがVP) NPだ]」型

(26) [これは]、+ [(人間 (○→が) 進歩している) 代価でしょうか]。(女 / 中国)

3年／学習歴2年／滞日0／感想文)

ii 「[NPは] + [(NPがAP) なNPだ]」型

(27) [これは] + [(私 (○→が) 一番すきな) 文だ]。(8級試験)

i型とii型は、「(NPがXP)」における「XP」の性格によって、VPなら連体形、APならナ形であるように、後続の名詞を修飾する際に構文上の制約を受けるが、実質は同類のものである。日本語では、従属節の主語は普通、格助詞「が」でマークしなければならない。

(28=26) [これは]、+ [(人間 (○→が) 進歩している) 代価でしょうか]。

/ 这就是人类进步的代价吧。

(29=27) [これは] + [(私 (○→が) 一番すきな) 文だ]。

/ 这是我最喜欢的句子。

(28=26)と(29=27)のように、「[NPは] + [(NPがXP) NPだ]」を中国語で表現する場合、「[文の主語] + 是 + [句の主語 + VP] + 的 + NP」となる。修飾語と被修飾語との間に、マーカ―が用いられるかどうかについては、中国語と日本語とでは異なるが、構文的には、両者が同類であると考えられる。構文的には同類であるとするれば、中国語母語話者の日本語学習者にとって理解しやすい構文になるので、誤用があまり出ないはずだと予測されるが、初心者から上級者まで何れも誤用が見られる。

これは、Ⅲ型においては、Ⅱ型と同様、文の主語と句の主語の両方にマーカ―を付与しなければならず、中国語母語話者の日本語学習者は、やはり、文の主語のマーカ―の付与に注意を払うが、句の主語にまでなかなか目配りが利かないことに起因するのではないかと考えられる。

3.4 IV型の「[(NPがXP) NPは] + [XP]」型の「が」の不使用について

格助詞「が」の不使用の誤用例の中で、このパターンは、最も多く、全体の40%を占めている。「[(NPがXP) NPは]」における「NPがXP」も従属節であるので、格助詞「が」が何れも従属節内の主語であるという点においてはⅢ型と同様である。また、句レベルの格助詞「が」の不使用という点においては、Ⅱ型とも同様である。即ち、Ⅳ型と、Ⅱ型、Ⅲ型とが同質のものであると言えよう。Ⅳ型は、「[{(従属節／句の主語がXP) NPは} 文の主語] + [XP]」と解釈することができるであろう。主に次のようなカテゴリーが含まれる。

i 「[(NPがAP) NPは] + [NPだ]」型

(30) [(保温性 (○→が) よい) のは] + [その最大の長所である]。(8級試験翻訳)

ii 「[(NPがVP) NPは] + [VP]」型

(31) [(我々中国の大学生 (○→が) 一年間で読む) 本は] + [アメリカの大学生の一週間で読む本にも足りないじゃないか]。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0／感想文)

iii 「[(NPがVP) NPに] + [VP]」型

(32) 地震などの自然災害において、[(地震など (○→が) 頻発している) 日本に] + [学び]、災害の発生を観測し、もちろん相手は自然だから100%的中するわけがないが、せめてその災害を小さくできるのなら、幸いなことだ。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文)

iv 「[(NPがVP) 現在／時]、[NPがNPだ]」型

(33) [(災害 (○→が) 頻発している) 現在]、+ [政府が減災・防災の対策を考える必要がある] と思う。(女／中国M1／学習歴10年／滞日0年／感想文)

文によって、「(NPがXP) NP」は、(30) (31) のように、文の主語または主題として用いられる場合もあれば、(32) (33) のように、対象を表す「準目的語」や時間を表す副詞的修飾成分として用いられる場合もある。いずれにしても、「(NPがXP)」は、やはり、何れも名詞的修飾成分として後続の [NP] を修飾することになっている。

このIV型の「(NPがXP)」における「NPが」を中国語で表現する場合は、次の (34=30) ~ (37=33) のように、名詞的修飾成分内の主語即ち句のレベルの主語として捉えている。

(34=30) [(保温性 (○→が) よい) のは] + [その最大の長所である]。

/ 保温性能好是其最大的优点。

(35=31) [(我々中国の大学生 (○→が) 一年間で読む) 本は] + [アメリカの大学生の一週間で読む本にも足りないじゃないか]。

/ 我们中国大学生一年所阅读的书还不及美国大学生一周所阅读的书。

(36=32) [(地震など (○→が) 頻発している) 日本に] + [学び]、

/ 向地震等灾害频繁发生的日本学习、

(37=33) [(災害 (○→が) 頻発している) 現在]、+ [政府が減災・防災の対策を考える必要がある]。

/ 在灾害频繁发生的当今，政府有必要考虑减灾和防灾的措施。

II型、III型と同様、文の主語（またはそれに相当するもの）と句の主語は同時にマーカーを付与しなければならないが、句の主語のマーカー付与が欠落されることが顕著である。これは、また、II型、III型と同様、文の主語のマーカーの付与に気を取られてしまい、加えて中国語母語の無標の干渉もあり、従属節である名詞的修飾成分内の主語のマーカーの付与を取り落としやすいことに起因すると考えられる。主語または主題を修飾する従属節の主語なので、II型の「[文の主語は] + [句の主語が+述語]」やIII型の「[文の主語は] + [(句の主語が述語) 名詞述語]」における句の主語より、更に取り落とされやすいためか、I型の誤用の比率の20%より、IV型の誤用の比率の方が遙かに高く、40%も占めている。

3.5 V型の「[NPがVPたら] + [NPはVP]」型の「が」の不使用について

V型の「[NPがVPたら] + [NPはVP]」における「NPがVPたら」も従属節であり、

句でもある。「[従属節／句の主語がVPたら] + [文の主語はVP]」と解釈することができるであろう。従って、このV型とII型、III型、IV型とが同質のものであると言えよう。主に次のようなカテゴリーが含まれる。

i 「[NPがVPたら] + [NPはVP]」型

(38) [両親 (○→が) 年寄りになったら]、+ [私は必ず彼たちと一緒に生活する]。
(8級試験)

ii 「[NPがVPとおりに] + [NPはVP]」型

(39) [先生 (○→が) おっしゃったとおりに]、+ [頑張って研究とバイトを両立させるつもりです]。(女／中国M1／学習歴5年／滞日1年／メール)

(38) と (39) のように、i型とii型における [NPがVPたら] や [NPがVPとおりに] は、III型、IV型と同様、主語の共起が求められる場合、その主語は、「が」でマークするのが文法の規則である。

(40=38) [両親 (○→が) 年寄りになったら]、+ [私は必ず彼たちと一緒に生活する]。
/ 父母年老之后，我肯定和他们住在一起。

(41=39) [先生 (○→が) おっしゃったとおりに]、+ [頑張って研究とバイトを両立させるつもりです]。

/ 正如老师所说的那样，我打算好好努力，让研究和打工双赢。

(40=38) と (41=39) のように、中国語においても、「[両親 (○→が) 年寄りになったら]」に相当する“父母年老之后”と「[先生 (○→が) おっしゃったとおりに]」に相当する“正如老师所说的那样”も従属節である。III型、IV型の格助詞「が」の不使用も踏まえて考えれば、従属節における格助詞「が」の不使用が1つ大きな特徴であると考えられる。換言すれば、中国語母語話者の日本語学習者にとって、従属節の主語のマーカーの付与はなかなか学習しにくいものであろう。

3.6 構文の制約からみた格助詞「が」の不使用

中国語母語話者の日本語学習者の日本語作文における格助詞「が」が不使用される構文は、

I型：「[NPがXP]」型

II型：「[NPは] + [NPがXP]」型

III型：「[NPは] + [(NPがXP) NPだ]」型

IV型：「[(NPがVP) NPは] + [XP]」型

V型：「[NPがVPたら] + [NPはVP]」型

のように、5分類できるが、句のレベルと文のレベルに分けて、再分類するとすれば、おおよそ、次のように、大きく二種類にわけることができる。

A型：文のレベルの「が」の不使用 (I型)

B型：句のレベルの「が」の不使用（Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型）

A型とB型の比率を再統計すると、図6になる。

即ち、格助詞「が」の不使用は、主に、2つのパターンがある。1つは、「事象叙述」や「現象文」と呼ばれる文における格助詞「が」の不使用であり、もう1つは、独立性の低い従属節や、文の主語または主題と句の主語が併存する場合、句においての格助詞「が」の不使用の顕著さである。

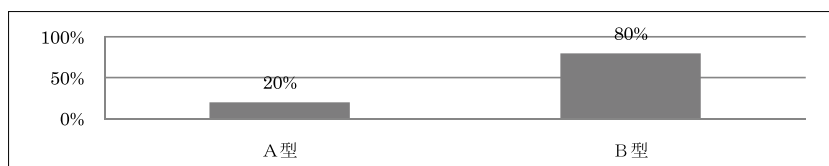


図6 A型とB型の比率 n=65

B型については、従属節には「～ことは」「～たら」「～時」「～現在」「のように」などのような識別マーカ―が伴われるので、それをしっかりとおさえておけば、不使用の解消に繋がると考えられる。また、文の主語または主題と句の主語の併存する文について、句も主語の共起を求める場合、その主語を「が」でマークしなければならないということをしかりとおさえておけば、従属節よりはすこし難しいかも知れないが、十分解消できるかと思われる。しかし、それに対して、最も難しいのは、A型である。即ち、「事象叙述」や「現象文」の認定条件をしかりと学習者が学習しない限り、学習者の個人の解釈の揺れによって、「が」の不使用または「は」の誤用の解消はなかなか難しいであろう。

4. 「過剰般化」や文体の選択エラーによる「が」の不使用

格助詞「が」の不使用には、次のような用例も見られる。

(42) ×これもまた時間かかるのですが、旧正月にも近付いているなどの事情で、日本に予定通りに届けられるかどうか少し確信がもてません。(女／中国M1／学習歴5年／滞日1年／メール)

(42) は不自然な日本語とされている。自然な日本語で表現するなら、(43) のように「が」を用いなければならない。

(43) 「これもまた時間がかかるのですが、旧正月にも近付いているなどの事情で、日本に予定通りに届けられるかどうか少し確信がもてません。

「時間がかかる」を中国語で表現すれば、「花時間」のように、無標になる。中国語母語話者の日本語学習者は、「花時間」を日本語で表現する際に、つい、「時間かかる」と言ってしまうそうである。従って、(42) は、一見すれば、中国語の干渉による誤用であると考えられそうである。しかし、

(44) 「8カ所全部回るなら、約3時間かかる。」(毎日新聞2009年)

(45) 乗り継ぎ時間も含めて24～30時間かかる。(毎日新聞2009年)

のように、(44) と (45) は、「が」が使われていないにもかかわらず、自然な日本語である。中国語母語話者の日本語学習者は、(44) と (45) の用法を学んだ場合、日本語で作文する際に、その用法を過剰に適用させることが十分考えられる。その結果、(42) という文が生まれてくることになる。

しかし、実際は、(44) (45) と (42) は、同質のものではない。(44) (45) が「(数詞+時間)+かかる」という構文であるのに対し、(42) は、「時間+かかる」という構文である。同じ「時間」ではあるが、品詞の分類が異なる。(44) (45) の「数詞+時間」は、助数詞として働くが、(44) の「時間」は、普通名詞である。従って、(42) は (44) (45) の過剰般化による誤用とは言っても、ボタンの掛け違えの過剰般化であろう。

日本語では、(44) (45) の助数詞は、文においては、遊離できるが、普通なら副詞的修飾成分として動詞を修飾する。「(数詞+時間)かかる」と「(数詞+時間)がかかる」の使用実態について、『毎日新聞』の1995版と2009年版を対象に調べると、図7のようになる。要するに、助数詞として働く「数詞+時間」は、特別な文脈でなければ、主語にはならないので、「が」の共起を求めないのである。

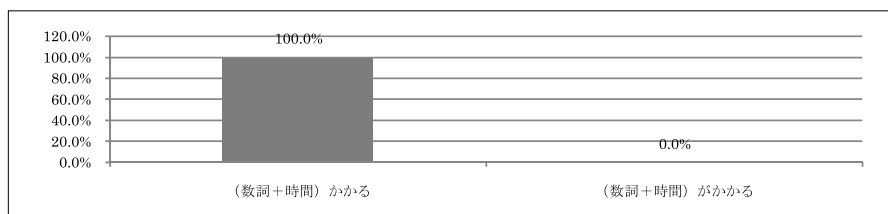


図7 「(数詞+時間)かかる」と「(数詞+時間)がかかる」の使用実態 n=545

ところが、『毎日新聞』の1995版と2009年版を対象に、更に調べてみると、「時間かかる」という用例も見つかった。

(46) 「コスモ信組処理、時間かかる」西村吉正・大蔵省銀行局長が外国特派員に講演 (毎日新聞1995年)

(47) 「感傷的な曲ならすぐできる。けど感傷を乗り越えんとホントの励ましにはならん。曲ができるまで時間かかるかも知れんけど、でき上がったらさりげなく歌うよ」(毎日新聞1995年)

(48) 「時間かかるが… 2 信組支援、必ず」玉置孝・全国地方銀行協会会長 (毎日新聞1995年)

(49) 「これが時間かかるのよ」と苦笑い。(毎日新聞2009年)

「時間がかかる」と「時間かかる」の使用実態について、『毎日新聞』の1995版と2009年版を対象に調べ、その結果を図に示すと、図8になる。

「時間かかる」の用例は、0.8%しか見られないように、非常に少ないが、(46) ～ (49) のように、特例ではなさそうなので、看過できない。

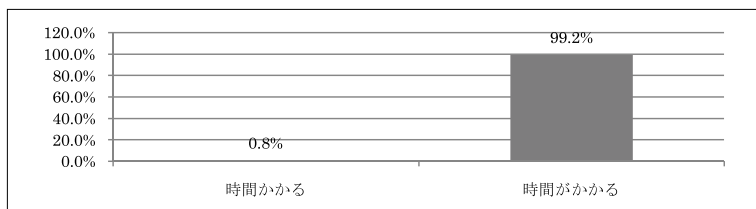


図8 「時間がかかる」と「時間がかかる」の使用実態 n=1058

(46) ~ (49) には、1つ共通点が見られる。それは、何れも書き言葉としてではなく、話し言葉として用いられているということである。一方、用例(50)と(51)や前に挙げた用例のように、「時間がかかる」は、地の文にも会話文にも使われている。

(50) 試合前に須藤ヘッドコーチが話していた。「大きな車輪ほど走り出すのに時間がかかる。いったん走り出したらすごい」。(毎日新聞1995年)

(51) 「まだ時間がかかるのか? いつまでこんなことをやってるんだ」と男はじれたように言った。(『1Q84』村上春樹)

要するに、「時間がかかる」は、書き言葉としても話し言葉としても用いられるのに対し、「時間かかる」は、話し言葉としてしか用いられないのである。

以上のように、「が」の共起の有無は、文体の影響を受ける。(46) ~ (49)における「が」の不使用は、「が」の共起が求められないのではなく、話し言葉の性格によって省略されたものと解される。

5. まとめ

以上において、『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパスVer.8』から抽出してきたデータを対象に、中国語母語話者の日本語学習者の格助詞の不使用を中心に、計量的な統計を行い、格助詞の不使用の実態を明らかにした上で、格助詞の「が」の不使用の実態を明らかにし、構文論や文体論という視点から、「が」の不使用の主な原因を究明した。その結果、主に次のようなことが明らかになった。

- ①格助詞の不使用は、主に、「に」、「が」、「で」、「を」に集中している。
- ②格助詞「が」の不使用は、主に、A型とB型に分けられる。A型とは、文のレベルの「が」の不使用のパターン（Ⅰ型）であり、B型とは、従属節または句のレベルの「が」の不使用のパターン（Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型）である。文体の違いの不注意による格助詞「が」の不使用も見られる。
- ③格助詞「が」の不使用は、次のように、主に3種類ある。
 - a. 「事象叙述」や「現象文」における「が」の付与の取り落とし
 - b. 従属節または句のレベルにおける「が」の付与の取り落とし
 - c. 文体による「が」の付与の間違い

④格助詞「が」の不使用は、主に「母語の干渉」と「ボタンの掛け違えの過剰般化」に起因すると考えられる。

本稿は、格助詞「が」の不使用を中心に考察してきたが、格助詞の不使用の全貌を明らかにするためには、格助詞の「に」「で」「を」の不使用の実態も究明しなければならない。また、格助詞「が」の不使用の原因を掘り下げ、より信憑性の高い結論を得るためには、「が→は」「は→が」の究明も必要であろう。それについて、これから、順次明らかにしていく予定である。

参考文献

- 石神照雄 1989 ハとガー主題と主語一, 北原保雄編『講座日本語と日本語教育4 日本語の文法・文体(上)』明治書院
- 于康 2011a 『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』の構築と中国語母語話者の日本語誤用研究のストラテジー, 『エクス 言語文化論集』第7号, 関西学院大学経済学部
- 于康 2011b 統計から見る中国語母語話者の助詞の誤用, 広島大学北京研究中心編『北研学刊』第7号, 白帝社
- 于康 2012a 「日本人は契約をたてまえだと思っている人多いということです。」錯在哪儿?, 《日語知識》7号, 大連外国語学院
- 于康 2012b 「この時は私たち先生に“ありがとうございます”というべきだ。」錯在哪儿?, 《日語知識》8号, 大連外国語学院
- 于康 2012c 「CPIがどんなに成長しても、全体としてはだめだったら、意味ないと思う。」錯在哪儿?, 《日語知識》9号, 大連外国語学院
- 于康 2012d 「これもまた時間かかるのですが……。」錯在哪儿?, 《日語知識》10号, 大連外国語学院
- 尾上圭介 2004 主語と述語をめぐる文法, 北原保雄監修・尾上圭介編集『朝倉日本語講座6 文法Ⅱ』朝倉書店
- 小池生夫編集主幹 2003 『応用言語学事典』研究社
- 野田尚史 1996 『新日本語文法選書(1)「は」と「が」』くろしお出版
- 益岡隆志 2000 『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 森田良行 1995 『日本語の視点—ことばを創る日本人の発想—』創拓社
- 森田良行 2002 『日本語文法の発想』ひつじ書房

中国語母語話者の日本語学習者の「格助詞」不使用について

—格助詞「が」の不使用を中心に—

于 康

『中国語母語話者の日本語学習者の誤用コーパスVer.8』から抽出してきたデータを対象に、中国語母語話者の日本語学習者の格助詞の不使用を中心に、計量的な統計を行い、格助詞の不使用の実態を明らかにした上で、格助詞の「が」の不使用の実態を明らかにし、構文論や文体論という視点から、「が」の不使用の主な原因を究明した。その結果、主に次のようなことが明らかになった。

- ①格助詞の不使用は、主に、「に」、「が」、「で」、「を」に集中している。
- ②格助詞「が」の不使用は、主に、A型とB型に分けられる。A型とは、文のレベルの「が」の不使用のパターン（Ⅰ型）であり、B型とは、従属節または句のレベルの「が」の不使用のパターン（Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型）である。文体の違いの不注意による格助詞「が」の不使用も見られる。
- ③格助詞「が」の不使用は、次のように、主に3種類ある。
 - a. 「事象叙述」や「現象文」における「が」の付与の取り落とし
 - b. 従属節または句のレベルにおける「が」の付与の取り落とし
 - c. 文体による「が」の付与の間違い
- ④格助詞「が」の不使用は、主に「母語の干渉」と「ボタンの掛け違えの過剰般化」に起因すると考えられる。

本稿は、格助詞「が」の不使用を中心に考察してきたが、格助詞の不使用の全貌を明らかにするためには、格助詞の「に」「で」「を」の不使用の実態も究明しなければならない。また、格助詞「が」の不使用の原因を掘り下げ、より信憑性の高い結論を得るためには、「が→は」「は→が」の究明も必要であろう。それについて、これから、順次明らかにしていく予定である。